

葬儀について

—大切な人を真に弔うために—

日蓮正宗
NICHIREN SHOSHU



どうか、大切な故人の死をとおして、成仏とは何か、
眞実の仏法とは何かを考えてください。

そして、かけがえのない故人の成仏を願つて、共々に
日蓮大聖人の御本尊を信じ、南無妙法蓮華経の題目を
唱えてまいりましょう。

必ず訪れる死

この世に生を受けた者には、必ず訪れる死―。死は、生きとし生けるものが絶対に避けることのできない定めです。

日蓮大聖人は、

「人の寿命は無常なり。（中略）風の前の露、尚譽へにあらず。かしこきも、はかなきも、老いたるも若きも、定め無き習ひなり。されば先づ臨終の事を習ふて後に他事を習ふべし」（妙法尼御前御返事・御書一四八一（六一））

と仰せられ、「臨終とは、いつ何時やつてくるかわからないもの、老いも若きも定めがないものである。だからこそ生前から、何よりも先に臨終のことを学び習つておきなさい」と臨終の大事を御教示されています。

真に救われる教え

肉親や大切な人の死に臨んだとき、誰もが深い悲しみにうちひしがれることでしょう。そして、故人の成仏を祈り、心からの葬儀を行いたいと願うはずです。ゆえに、その葬儀は、故人を必ず成仏に導く、正しい宗教によらなければなりません。

大聖人が、

「三世の諸仏も妙法蓮華經の五字を以て仏に成り給ひしなり」

（法華初心成仏抄・御書一三三一（六一））

と仰せられているように、すべての仏は、妙法蓮華經という本法を種として仏となることができたのです。したがって、故人が成仏するためには、眞実の教えである妙法蓮華經によるべきです。

大切な故人を弔うために

日蓮正宗では、葬儀を行う場合、御本仏・日蓮大聖人以来の伝統法義に基づき、御本尊を奉掲し、本宗僧侶の導師により、読経・唱題等をもつて故人の成仏を祈念します。

このことについて大聖人は、

「今日蓮等の類聖靈を訪ぶ時、法華經を読誦し、南無妙法蓮華經と唱へ奉る時、題目の光無間に至つて即身成仏せしむ」（御義口伝・御書一七二四（六一））

と示され、亡くなつた方を弔うとき、法華經を読誦し、南無妙法蓮華經を唱へ奉るならば、正しい題目の功德によって、必ず即身成仏できることを御教示されています。

